

「あなたがたは地の塩である」

レビ記 第2章 11節～13節
マタイによる福音書 第5章 11節～16節

説教 岡村 恒牧師

「あなたがたは、地の塩である。…あなたがたは、世の光である。」(13節、14節)主イエスが大勢の人々に向かって語りかけて下さった言葉です。

主イエスが一人一人に宣言するようにして聞かせて下さった言葉です。主は決して、地の塩になりなさいとか、世の光になりなさい、とは言われなかったのです。主は、飼う者のない羊のように頼りない人々をご覧になりながら、あなたがたはさいわいであると語りかけられました。主イエスが地上に来て下さり、神の救いの時が来たので、あなたがたはさいわいであるし、地の塩、世の光として生きることができるのだ、と言われるのです。

「こころの貧しい人たちは、さいわいである。」(3節)と主は、神を知り、神の前に身を小さくして投げ出して生きる信仰者の幸いを描き出されました。それに続いて、迫害される時、あなたがたはさいわいだと言い始められました。新共同訳聖書では「身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである」(11節)と訳されています。最初の殉教者ステパノの姿が思い起こされます。(使徒行伝7章)主はこのような理不尽な場面で、「喜び、よろこべ」と言われます。主イエスを信じて生きる時、私たちは試練に会います。身に覚えのないことで非難されることもあります。しかしその時、私たちは自分がいったい何者であるかを知るようになるのです。神の子、神の国を受け継ぐ者であることを確認するのです。

迫害の話を聞いて、弟子や群衆の中には不安を覚える者がいたかも知れません。後に、死から復活された主に直接お会いした時でさえ、弟子の中には「疑う者もいた」(マタイによる福音書28章17節)のです。これが私たちの現実です。だからこそ主は、この迫害の予告に続いて宣言されました。「あなたがたは、地の塩…世の光である。」

この宣言を、私たちは繰り返し思い起こして、自分自身に語られた宣言として聞き続けて歩みます。先週行われた関西部会中高生修養会で、講師の平野克己牧師(東京・代田教会)が講演の中で地の塩として生きる幸いについて語られま

した。塩は、ごくわずかの量であっても料理全体の味を決定します。キリスト者がこの世にあって少数者として生きることの意味深さ、ごくわずかの塩として全体に影響を及ぼす役割の大きさを教えられました。私たちが未だ少数者であることにも、確かに深い意味があるのです。

主は、「喜び、よろこべ」と語りかけられました。終わりの日を待ち望んで生きる私たちは、この世にあって、なくてはならない塩だからです。暗闇の中で、進むべき道を示す光として、主へと続く道を照らして生きることが許されているのです。主イエス・キリストを救い主と信じて歩む者には、地の塩、世の光としてのかけがえのない働きを委ねられているのです。

レビ記に記された捧げ物の規定には、神の契約の塩を欠いてはならない、という定めがあります(レビ記2章13節)。他のものとは違う、《聖別》されたものとして、塩によって清められたものだけを神に捧げなさいというのです。私たちは、神によって塩の働きをする存在とされました。神によるこぼれるものとして捧げ物全体が清められ、聖別されるために、私たち信仰者の存在が不可欠なものとして用いられるのです。主イエスは、私たちを聖別し、特別なものとして神の御用のためにお使い下さいます。

やがて終わりの日、迫害の痛みも、信仰の戦いの痛みも、豊かに神によって報いられます。だからこそ、主イエスは「さいわいである」と何度も語りかけて下さいました。主は「さいわいである」と連呼されたのです。主イエスがやがて十字架へと歩いて下さったのは、私たちのこのさいわいのためでした。ご自身の血を流して、私たちを神の子とし、地の塩、世の光として生きる者にするために、主イエスはおいで下さったのです。

主イエス・キリストが私たちのために十字架にお架かり下さり、血を流して下さったのは、私たちにこの宣言を聞かせ、その通りに歩ませるためでした。私たちは今日も、「あなたがたは、地の塩である。…あなたがたは、世の光である。」との宣言を聞いて歩むのです。

(記 岡村 恒)